

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--|---------|-------------|
| 事業所番号 | 4090500093 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 双葉会 | | |
| 事業所名 | グループホーム 双葉荘 | | |
| 所在地 | 〒803-0275 福岡県北九州市小倉南区高野3丁目11番1号 093-451-2851 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年04月08日 | 評価結果確定日 | 平成27年05月20日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

買物や散歩など、行きたいときに行きたい所へ行ける環境づくりを目指している。また、ご入居者の方々が日々の暮らしの中で、共通の話題を持って頂くことを目的として、全員で外出する機会を多くするよう配慮している。
平成25年6月に複合型介護施設・ふたばのそのが開所し、新年会や敬老会等の行事を合同で実施している。ご入居者・ご家族・職員との交流・情報交換ができるように努めている。地域の行事に参加したり清掃活動を双葉荘・第二双葉苑と連携をしながら行い地域住民の方々と交流を図るようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「双葉荘」は、郊外の緑に囲まれた住宅地の中に、複合型福祉施設と併設の1ユニット(定員9名)のグループホームである。管理者と職員は、利用者の生活環境や、一人ひとりの個性に合わせた介護サービスに取組み、毎日に元気で、明るい笑顔が戻った利用者を見守る家族は、驚きと喜びに包まれ、ホームとの深い信頼関係に結びついている。法人全体の夏祭りや餅つき大会には、利用者家族や地域の方が参加し、つくたての餅を利用者と職員が配り、地域交流の輪が広がっている。利用者のかかりつけ医とホームドクターによる往診体制が確立し、併設事業所の看護師と介護職員が、チーム介護で利用者の変化を見逃さず、「早期発見、早期治療」に繋げ、利用者の健康管理は、24時間安心して任せられる体制が整っている。また、現在まで、3人の看取り介護を行い、質の高い介護に取り組んでいる「双葉荘」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会 | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 093-582-0294 | | |
| 訪問調査日 | 平成27年04月30日 | | |

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 |
|----|--|---|----|---|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 68 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 64 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------|----|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 就業規則や日々の業務を通じて、個性(その人らしさ)と、尊厳を支えるケアを徹底している。職員やご入居者、ご家族の目の届く場所に理念を掲示している。 | ホームが目指す介護サービスの在り方を示した理念をホーム内2ヶ所に掲示している。職員一人ひとりが理念の意義を理解し、利用者の個性と尊厳を守る介護サービスを目指し、日々努力している。職員は、利用者のその人らしい生活の実現の為、「寄り添いのケア」を大切に、利用者本位の介護サービスの提供に取り組んでいる。 | 管理者、職員の異動により、以前行っていた理念の共有に向けての取り組みが行われていない為、自分達が入居して生活したいと思えるホームを目指すためにも、理念を実践出来ているかを振り返る機会を持つ事が望まれる。 |
| 2 | 2 | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域行事に参加したり、清掃活動を併設施設である第二双葉苑と合同で行っている。又、「ふたばねっと」主催で開催する催しにも地域住民の方々にご参加頂いている。運営推進会議には、町内会長に参加して頂き、情報交換を行っている。 | 認知症高齢者支え合いネットワーク「ふたばねっと」主催の、夕涼み盆踊り大会や餅つき大会に、地域住民や家族を招き、搗きたての餅には一言添えて近所に配っている。また、町内会に加入し総会に参加したり、ボランティアの受け入れ等、利用者が地域と関わりながら暮らし続けられるように努力している。 | 地域交流ホールを地域に開放したり、イベントを行い地域の方が足を運ぶ機会を作る等、地域密着型事業所としての役割を果たす取り組みと、併設事業所と協力して地域の行事に参加する等の地域交流への取り組みを期待したい。 |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議にて、ご入居者の生活状況や、主な出来事をお伝えし、認知症の方々に対する理解を深めて頂けるようにしている。 | | |
| 4 | 3 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回開催し、活動報告・生活状況等の情報交換・情報共有を行い、生活の質の向上に努めている。 | 運営推進会議は、利用者代表、町内会会長、地域包括支援センター職員の参加により、2ヶ月毎に開催し、ホームの現状や取り組み、課題等について報告を行っている。参加委員からは、質問や意見、情報提供を頂いている。今後は、会議がマンネリ化しないように、議題や参加委員の増員を検討し、会議の充実を図り、サービスの質の向上に活かしていく事を目指している。 | |
| 5 | 4 | 市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に地域包括支援センター職員1名に必ず参加して頂き、連絡を取り合っている。 | 疑問点や困難事例を行政担当窓口にご相談したり、事故報告を行う等、情報を交換しながら連携を図っている。また、運営推進会議に、地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を伝え、助言や情報提供を受け、協力関係を築いている。 | |
| 6 | 5 | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 外部研修やホーム内部研修の中で、すべての職員が身体拘束によって生じる身体的・精神的弊害について理解し、日々のケアに取り組んでいる。 | 身体拘束に関する資料を見ながら内部研修を行う等、職員一人ひとりが、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束について理解し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。 | |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 外部研修やホーム内部研修の中で、すべての職員が高齢者虐待について理解している。虐待の現場を発見したら、管理者・市町村に通報するよう周知しており、管理者が虐待している場合にも行政等へ通報する旨を全職員に周知している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | 6 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護についてミーティング時に話し合いの場を持ち、全職員に周知している。 | 日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員ミーティングの中で話し合い、制度の重要性を理解している。また、資料やパンフレットを何時でも手に取れるよう玄関に設置し、必要に応じて家族や関係者と話し合い、利用者が不利益を被らないよう、制度活用に繋げている。 | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時、重要事項説明書にて、十分に説明を行っている。又、疑問点についても十分に説明し、不安や不信感を与えないようにしている。 | | |
| 10 | 7 | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご入居者の不満・苦情等、一人ひとりの話をいつでも聞ける環境づくりに努めている。各ご入居者担当職員が密に関わり、職員間で情報を共有し、改善するようにしている。又、苦情担当者・苦情箱を設置し、意見を言いやすい環境づくりに努めている。 | 日常生活の中で、担当職員を中心として利用者に関わり、要望や不満を聴き取っている。家族に対しては、面会や行事参加の時に、家族とコミュニケーションを取るよう努め、家族の意見や要望、心配事を聴き取り、利用者の介護計画やホーム運営に反映させている。「双葉荘だより」を送付し、ホームでの暮らしぶりを伝え、遠方の家族には電話等で、意見や要望を聴いている。 | 行事を兼ねた家族交流会を開催し、ホームと家族、家族同士で話し合う機会を設け、利用者を中心として、ホーム、利用者、家族の信頼関係を築く取り組みに期待したい。 |
| 11 | 8 | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎日の申し送り、月1回のミーティングにて意見や提案を聞ける体制を取り、反映させている。 | 毎月1回、職員ミーティングを開催し、管理者は、職員が意見や要望を言いやすい雰囲気作りに努め、活発な意見交換が出来る。出された意見や要望は、ホーム運営や業務改善に活かされている。やむをえず欠席した職員には、後日ミーティング録にて説明し、決定事項等の周知徹底を図っている。 | |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 有給休暇のほかに夏冬リフレッシュ休暇を整備をしている。 | | |
| 13 | 9 | 人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 法人は性別・年齢等の制限を設けず、求職者全員の面接を行っている。各個人の得手不得手を理解し、その能力を活かしながら、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるように配慮している。 | 職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、介護に対する考えや人柄を優先して採用している。男女別のロッカールームを設置し、休憩時間を確保し、勤務体制や希望休にも柔軟に対応している。職員の特技を活かした役割分担を採り入れ、働きやすい職場環境を目指している。また、職員の自己実現や社会参加のための、リフレッシュ休暇制度も整えている。 | |
| 14 | 10 | 人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | ご入居者の人権を尊重する為、全ての職員に対して人権教育・啓発活動に取り組んでいる。 | 新人研修や職員ミーティング、毎日の申し送り時に、利用者の人権を守る介護のあり方について話し合い、言葉遣いや対応について、その都度意見を出し合い、利用者本位の介護サービスが提供出来るよう取り組んでいる。また、職員は理念を常に意識し、利用者の個性と尊厳を守る事を自覚している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員採用時にそれぞれの段階に応じた研修を設け、その内容をすべての職員に周知している。 | | |
| 16 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 日本認知症グループホーム大会に毎年参加している。全国のグループホーム事業所の職員が集まる場で、情報交換など行っている。 | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人の想いや不安を個別にお聞きし、信頼関係の構築に努めている。 | | |
| 18 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 電話や訪問で見学・入居依頼を受けた際は、相談を受け少しでも疑問や不安が解消されるような支援している。見学時は管理者等、適切な職員が対応し、じっくりとお話を伺っている。 | | |
| 19 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 初期面談において、ご本人の状況及びその周辺環境をお聞きし、出来る限り適切なサービス利用等を助言している。電話による問合せの場合は、なるべく来荘して頂き、見学・面談して頂くようお願いしている。 | | |
| 20 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員採用時、新入職研修にて、常にご入居者とは対等であり、尊厳を持ってケアにあたるよう教育している。喜怒哀楽を共にし、時間を共有することで、支えあう関係作りに努めている。 | | |
| 21 | | 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時に一緒に食事を召し上がって頂いたり、散歩やレクリエーションに参加をして頂くことで、自宅にご家族が訪問しているように感じて頂くよう、お願いしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | 11 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 以前、入所していた施設、自宅での法事やお墓参り等にお連れし、馴染みの人間関係が継続していけるように努めている。 | 親戚や友人、知人の面会時には、ゆっくり話せる環境を提供し、また来て頂けるよう声掛けしている。利用者の自宅での法事やお墓参りに職員が同行したり、馴染みの店に買い物に出かける等、利用者が築いてきた人間関係や、地域社会との関わりが継続出来るように取り組んでいる。 | |
| 23 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ご入居者同士の会話や交流の場面作り、楽しい雰囲気作りに努めている。中の良いご入居者同士と一緒に過ごせるように配慮したり、孤立しがちなご入居者が輪に入れる機会を作る等、助け合い・支えあいの関係が築けるように支援している。 | | |
| 24 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去されたご入居者においては、管理者・職員が時折、自宅訪問や、入院先の病院に訪問している。 | | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | 12 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 常日頃からご入居者一人ひとりの思いをお聞きし、受け止め、実現できるよう支援している。 | 職員は、「寄り添いのケア」の中で、利用者の想いを聴いている。「 に行きたい」と言う利用者の思いを、行事レクとして対応し、家族と相談しながら思いの実現に向けて取り組んでいる。また、暮らしの中で出された利用者の言葉をそのまま記録し、利用者の希望や意向を職員間で共有し、本人本位のケアの実践に繋げている。 | |
| 26 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族からの聞き取り、ご本人との会話にて、これまでの暮らしを把握している。又、センター方式B-3シートを活用し、これまで歩んできた暮らしを理解するよう努めている。 | | |
| 27 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日その日の状況に応じ、ドライブや買物に出掛けたりしている。又、食事の片付け、洗濯等の家事を一緒に行い、ご入居者の持つ力を引き出し、発揮できるよう支援している。 | | |
| 28 | 13 | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご入居者の生活歴を十分に把握し、ご本人・ご家族・担当者・計画作成担当者が中心となり、適した介護計画を作成している。毎月のミーティングにてカンファレンスを開き、全職員の意見を吸い上げ、介護計画に活かしている。 | 利用者や家族の希望を聴いて、ミーティングで話し合い、担当職員を中心とした気づきや意見を反映させた介護計画を3ヶ月毎に作成している。ケアチェック表で、計画が実行できているかを確認し、利用者の状態変化と合わせ、その都度計画の見直しを図っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ご入居者が発した言葉をそのまま記録し、職員間での気づきに繋げている。日々のケアや介護記録に反映させる為、ご入居者それぞれの特徴や変化を具体的に記録している。 | | |
| 30 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 併設施設(地域密着型介護老人福祉施設 第二双葉苑)との協力体制や共同行事の実施、同法人内の保育園・児童擁護施設の行事参加により、グループホーム以外との関わりを深めている。 | | |
| 31 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域住民や地域の商店街すべてが社会資源であり、散歩や買物を日々行うことによって、個別の関係性の構築に努めている。 | | |
| 32 | 14 | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご入居者やご家族の馴染みのかかりつけ医の継続をしえ頂き、情報共有を行っている。各自の医療機関を把握し、必要時対応している。 | 利用者や家族の希望を優先し、馴染みのかかりつけ医の受診支援に取り組んでいる。隔週毎の往診体制が整っている協力医療機関の医師と、併設事業所看護師が連携し、介護職員のきめ細かな観察力と合わせ、利用者が安心して適切な医療を受ける事が出来る体制を整えている。 | |
| 33 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 併設施設(地域密着型介護老人福祉施設 第二双葉苑)常駐の看護師に適宜、相談、対応してもらっている。 | | |
| 34 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院されたご入居者には、職員が必ずお見舞いに行くようにしており、ご家族からの状況報告を受け、早期退院のための話し合いや協力を医療機関と行っている。 | | |
| 35 | 15 | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 看取り介護に関する指針を定め、ご家族に説明をし了承を得ている。又、職員にも説明を行い方針を共有している。 | 入居時に利用者や家族に、「看取りの指針」を基に、ターミナルケアについて説明を行い承諾を得ている。また、利用者の重度化に伴い、家族や主治医と段階的に話し合い、方針を確認し、職員全員で方針を共有し、利用者が安心して終末期を過ごせる環境を整えている。これまで3件の看取りを家族の協力を得ながら実施している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ケガ・転倒・窒息・意識不明等の緊急事態発生時の対応マニュアルがあり、全職員が内容を周知している。 | | |
| 37 | 16 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災・災害等の緊急事態に備え、避難経路及び避難場所の確保をしておくと共に、すべての職員が誘導方法を周知している。 | 年2回、夜間と昼間を想定した避難訓練を、消防署の協力と指導を得て実施している。通報装置や消火器の使用方法を確認し、利用者を安全に避難場所に誘導する体制を整えている。常に併設事業所の職員と連携し、協力体制の確認を行なっている。非常食、飲料水等の備蓄も併設事業所と共同で行っている。 | |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | 17 | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 職員入職時に個人情報についての誓約書を取っている。職員は常にご入居者の人格を理解・尊重し、誇りやプライバシーを大切にしている。記録物や個人情報の取り扱い方法を全職員が周知している。 | 共同生活の中で、利用者一人ひとりのプライバシーを損ねない声掛けや対応に細心の注意を払い、利用者一人ひとりのプライドや羞恥心に配慮したケアの実践に取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いに注意し、情報漏洩防止に取り組んでいる。 | |
| 39 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 職員はご入居者の自己選択・自己決定を大切に、それを実現できるよう支援している。 | | |
| 40 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床時間・食事時間・入浴時間はなるべく希望に沿えるよう支援している。職員都合や業務優先にせず、ご入居者のペースに合わせるよう支援している。 | | |
| 41 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご入居者一人ひとりの嗜好や個性を大切に髪型・服装等のおしゃれを支援している。又、ご入居者の希望をお聞きし、訪問美容(散髪)の対応をしている。 | | |
| 42 | 18 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | ご入居者の出来る範囲で、食事の配膳、汁物づくり、片付けをお手伝いして頂いている。 | 配食サービスから届けられる食事を、ホームで温めて提供し、利用者の中に職員が座り、「御飯の固さはどうですか」等、声掛けしながら、一緒に食事をしている。月に1回、「お楽しみ昼食会」を実施し、ハンバーガーやラーメン、お弁当等を準備し、食事を楽しむ事が出来るよう支援している。アンパンやホットケーキ等、おやつ作りにも挑戦している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ご入居者に必要な栄養バランスとカロリーを把握し、提供している。又、各個人の食事量・水分量をチェックしており、個別に対応している。 | | |
| 44 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔内の汚れや臭いが生じないように、毎食後口腔ケアを行っている。又、口腔内の観察(出血・炎症・痛み等)を行い異常の早期発見に努めている。 | | |
| 45 | 19 | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ご入居者一人ひとりの排泄パターンをつかみ、個別対応している。その方のあった下着・パットを使用し、快適に過ごして頂けるよう支援している。 | 職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、利用者の表情や仕草から察知して、早めの声掛けや誘導を行い、トイレでの自立に向けた排泄の支援に取り組んでいる。また、オムツ使用の利用者が、リハビリパンツ、布パンツに改善され、オムツ使用の軽減と、利用者の自信回復に繋げている。 | |
| 46 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 職員は便秘の原因や及ぼす影響を十分に理解し、予防と対応に努めている。食物繊維が豊富な飲食物を取り入れたり、便意を促す運動やマッサージをすすめたりと、安易に薬に頼らず、排便コントロールが出来るよう支援している。 | | |
| 47 | 20 | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | ご入居者の意思を必ず確認し、希望に沿えるよう支援している。入浴をゆっくりと楽しんで頂けるよう、マンツーマンで対応している。 | 入浴は利用者の希望を聴いて、出来るだけ希望を優先した楽しい入浴になるよう取り組んでいる。中庭を望み、ちょっとした温泉気分で入れる贅沢な造りの浴室と、併設事業所の檜風呂を選んでもらい、希望の入浴が出来るよう支援している。入浴時はマンツーマンで対応し、ゆっくりと話を聞いて、信頼関係を深める機会にもなっている。 | |
| 48 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご入居者の睡眠リズムを重視し、心地よい睡眠がとれるよう支援している。 | | |
| 49 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員はご入居者が使用する薬の目的や副作用・用量や用法を把握しており、医師の指示通りに服薬できるように支援し、症状の変化を観察・確認している。又、誤薬の無いよう個別の薬箱を設置、日付・名前を確認後与薬し、誤薬防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 毎日の生活の中で、状況に応じ、お手伝いをして頂いている。お手伝いを通してご入居者同士、職員との会話が増え楽しみが持てるように支援している。趣味の継続、買物やドライブ等外出の機会を作るよう努めている。 | | |
| 51 | 2.1 | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 近隣の公園や畑に出掛けたり、買物やドライブ等、できるだけ外出の機会を持てるよう支援している。 | 天気の良い日は、鶯がさえずる自然環境のホームの周辺を散歩し、季節を五感で感じてもらい、気分転換に繋げている。買い物や花見、ドライブ等に積極的に出掛け、利用者に活気ある日々を過ごして頂くために、生き甲斐に繋がる外出の支援に取り組んでいる。また、外食は利用者の楽しみにしている時間である。 | |
| 52 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご入居者ご自身がお金を持ち、使う事の大切さを、職員が十分に理解しており、日常の金銭管理を行えるようご入居者の能力に応じて支援している。ご家族にもお金を持つ意味と必要性をお伝えしている。 | | |
| 53 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ホームの電話機にてご入居者自ら電話を掛けている。ご家族宛に年賀状・絵葉書など書いてやりとりの継続の支援してる。 | | |
| 54 | 2.2 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用の生活空間は家庭的な雰囲気作りに努め、自宅にいるような快適さを感じて頂けるようにしている。 | 開放的でゆったりとした造りのホームは、来訪者も多く、季節毎の壁飾りや利用者の笑顔の写真を掲示し、訪れる人を楽しませている。健康に良い珪藻土の壁や温度、湿度、照明、換気に注意し、健康的で、明るい雰囲気での共用空間である。また、中庭には、以前利用者の家族から頂いた紫陽花が大きく育ち、利用者の目を楽しませている。 | |
| 55 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用の生活空間の中でご入居者が一人になったり、気の合うご入居者同士で自由に過ごせるような居場所作りに努めている。プライバシーを確保しながら、安心して過ごせる環境作りに努めている。 | | |
| 56 | 2.3 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には使い慣れた家具や、馴染みの生活用品・装飾品がそのまま持ち込まれ、自宅にいるような安心できる空間となっている。 | 利用者が自宅で使い慣れた馴染みの筆筒や机、椅子、仏壇等を家族の協力でたくさん持ち込んでもらい、その人らしい居室になるよう工夫している。大きな掃き出し窓からの採光で部屋は明るく、トイレも完備され、プライバシーに配慮した落ち着いた居室である。 | |
| 57 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下・浴室・トイレ等に手すりを設置し、出来る限り自立した生活を送れる環境作りに努めている。又、ご入居者の動線上に危険な物を置かないよう環境整備に努めている。 | | |